



Press Release

公益財団法人 JR 西日本あんしん社会財団
〒530-8341 大阪市北区芝田二丁目 4-24
TEL 06-6375-3202 FAX 06-6375-3229

第 11 回連続講座

『いのち』を考える

～体験から生まれた叡智と生き方～

開催のお知らせ

JR 西日本あんしん社会財団では、平成 24 年度より、死や悲嘆・グリーフケアをはじめ、多様な観点から「いのち」に焦点を当て、共に考える連続講座を開催しているところです。

平成 28 年度は、年 3 回（春、秋、冬）開催することを計画しています。

春季は 4 月より第 11 回目となる連続講座「『いのち』を考える」～体験から生まれた叡智と生き方～を以下のとおり開催しますのでお知らせいたします。

1. 日 時 平成 28 年 4 月 28 日から平成 28 年 6 月 9 日までの**毎週木曜日** 18:30～20:00（計 6 回）
※ 5 月 5 日（木・祝）は除く

2. 会 場 毎日新聞オーバルホール（毎日新聞ビル地下 1 階）

3. 講 師（敬称略）

①	4/28	養 老 孟 司	東京大学名誉教授
②	5/12	鳥 越 俊 太 郎	ニュースの職人
③	5/19	藤 田 和 子	若年性アルツハイマー病の本人 NPO 法人若年性認知症問題にとりくむ会・クローバー副理事長 日本認知症ワーキンググループ共同代表
④	5/26	大 前 光 市	プロダンサー
⑤	6/2	広 野 ゆ い	NPO 法人 DDAC（発達障害をもつ大人の会）代表
⑥	6/9	倉 田 め ば	薬物依存リハビリテーション・センター 大阪ダルクディレクター

4. 主催等

主催：公益財団法人 JR 西日本あんしん社会財団

協力：西日本旅客鉄道株式会社

5. 定 員

480 名（参加無料）

6. 応募方法

- ・ホームページ（<http://www.jrw-relief-f.or.jp/>）からご応募ください。
 - ・6 回全回出席いただける方を対象とします。
 - ・応募締切：平成 28 年 3 月 22 日（火）
 - ・応募多数の場合は抽選の上、結果をメールでお知らせします。
 - ・受講には受講証が必要です。（4 月 8 日頃発送予定）
 - ・ご応募でいただいた個人情報は、当講座の運営及び当財団からのお知らせ以外の目的には使用しません。
- ※上記による応募ができない場合は、ハガキに「連続講座受講希望」と明記の上、氏名（要フリガナ）、郵便番号、住所、電話番号を記載し、下記の宛先へお送りください。結果は受講証の発送をもって代えさせていただきます。（ハガキ 1 枚につき 1 名様のお申込みとさせていただきます。）

〒530-8341 大阪市北区芝田二丁目 4 番 24 号

公益財団法人 JR 西日本あんしん社会財団

7. その他

- ・都合により急遽講演内容等を変更する場合があります。
- ・当日の取材はお断りさせていただきます。
- ・講座の内容は、ホームページ（<http://www.jrw-relief-f.or.jp/>）でもご覧いただけます。

第11回連続講座『いのち』を考える ～体験から生まれた叡智と生き方～ 講師プロフィール（敬称略）

日程	講師	プロフィール
4/28 (木)	養老 孟司 (ようろう たけし) 東京大学名誉教授 【演題】 死から見えてくるもの	1937年神奈川県鎌倉市生まれ。1962年に東京大学医学部を卒業し、1年のインターンを経て、解剖学教室に入る。1967年に医学博士号取得。1981年に東京大学医学部教授に就任し、東京大学総合資料館長、東京大学出版会理事長を兼任。1995年に東京大学を退官。1996年に北里大学教授に就任(2003年退職)。1998年より東京大学名誉教授。『からだの見方』(筑摩書房;サントリー学芸賞)、『バカの壁』(新潮社;毎日出版文化賞)など著書多数。
5/12 (木)	鳥越 俊太郎 (とりごえ しゅんたろう) ニュースの職人 【演題】 がんと向き合って	1940年福岡県吉井町(現うきは市)生まれ。京都大学文学部卒業後、毎日新聞社に入社。新潟支局、大阪社会部、東京社会部、「サンデー毎日」編集部に所属し、外信部(テヘラン特派員)を経て1988年より「サンデー毎日」編集長。1989年に退職して以降、「ザ・スクープ」「サンデージャングル」でキャスターを務めるなど、テレビメディアに活動の場を移す。2005年にステージ4の大腸がんが発覚、肺や肝臓への転移を経て4度の手術を行う。現在もさまざまなメディアで「ニュースの職人」として活躍中。『君は人生を戦い抜く覚悟ができていますか?』(日本実業出版社)、『がん患者』(講談社)など著書多数。
5/19 (木)	藤田 和子 (ふじた かずこ) 若年性アルツハイマー病の本人、NPO法人若年性認知症問題にとりくむ会・クローバー副理事長、日本認知症ワーキンググループ共同代表 【演題】 認知症のわたしたちが、考えていること、いっしょにつくっていききたいこと	1961年鳥取市生まれ。市内の総合病院に7年間勤務し、認知症の義母を9年間介護の後、市内の個人病院で8年間勤務する。2007年6月に若年性アルツハイマー病と診断される。2010年11月に「クローバー」を立ち上げる。2011～13年、鳥取市差別のない人権尊重の社会づくり協議会委員。2014年10月に日本認知症ワーキンググループ設立に参画。同月、厚生労働大臣へ要望書(政策提言書)を提出。11月、認知症サミット日本後継イベント(国際会議)においてスピーチを行う。2015年1月、「新オレンジプラン」策定に伴い安倍首相と面談。
5/26 (木)	大前 光市 (おおまえ こういち) プロダンサー 【演題】 “無様”でも 生きることは美しい	1979年岐阜県生まれ。大阪芸術大学でバレエなどを学ぶ。プロのダンサーとして活躍していた23歳の時、事故で左足を失うも義足のダンサーとして復帰。踊りに合わせて様々な形状の義足も開発し、美しいだけではなく、義足の体でしかできない唯一無二のダンスを作り上げる。現在はプロとして、年間20公演をこなしている。
6/2 (木)	広野 ゆい (ひろの ゆい) NPO法人DDAC(発達障害をもつ大人の会)代表 【演題】 発達障害という個性を生きる	子ども時代から、遅刻、片づけができない、周りに合わせられないなどの特性があり、忘れ物の女王、遅刻の帝王などと呼ばれながら学生時代を過ごす。専業主婦であった28歳でうつ病、31歳の時にADHDと診断される。2002年に大人の発達障害のグループ「関西ほっとサロン」、2008年4月に「発達障害をもつ大人の会」を立ち上げる。現在は、発達障害当事者の立場でキャリアカウンセリング、教師や専門職向けの講演、企業向けのセミナー等も行っている。ICDSキャリアコンサルタント。ロゴセラピスト。
6/9 (木)	倉田 めば (くらた めば) 薬物依存リハビリテーション・センター 大阪ダルクディレクター 【演題】 私が手渡したいもの	大阪ダルクディレクター。Freedom代表。1993年にフォトグラファーの仕事进行を辞め、薬物依存回復施設「大阪ダルク」を設立。2002年に薬物依存症からの回復を支援する市民団体「Freedom」を多くの賛同者とともに設立。ピア・ドラッグ・カウンセラーとして現在に至る。神戸学院大学学際教育機構客員教授。精神保健福祉士。